国立国語研究所学術情報リポジトリ

On the Length of Word Combination : The Case of Chinese Borrowings Written in Two Characters Used in Cultural Reviews

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2019-02-15
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 斎賀, 秀夫, SAIGA, Hideo
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001714

語の結合の長さ

—総合雑誌における二字の漢語の場合—

斎　賀　秀　夫

1　長い語形

日本語の中には語形のかなり長いものがある。最近，世間を大いに騒がした

警察 官 職務 執行 法

という法律名も，その一例だが，これはさらに，

警察 官 職務 執行 法 改正 案

警察 官 職務 執行 法 改正 案 粉砕 決議 大会

などと，いくらでも長く続けることができる。（もっとも，これらは単一の語とは考えず，いくつかの語の結合形と見るのが普通だろうが，ともかく，こうしたことが可能なのは，日本語の名詞——中でもいわゆる漢語注)が，比較的自由に他と結合しあう性質をもっているためだ。ただし，いくら自由にとは言っても，実際に行なわれる言語としては，その長さにもおのずから限界というものがあるはずだ。いま，それについて触れる前に，語の結合に関して，あらかじめ二三の限定をしておきたい。

【語の結合の長さを測る尺度】 語の結合の長さを測る尺度としては，音節数や漢字の字数なども考えられるが，ここではその結合形の構成要素としての語の結合回数を規準にする。つまり，いくつの語が何回結合しあっているかを勘定して，その結合形の長さを測定しようというわけだ。

【構成要素としての語のとらえ方】 その次には，構成要素としての語をいかなる単位のものとしてとらえるか，という問題がある。ここでは，われわれが

注　ここで漢語というのは，単に字音語というほどの意味，すなわち漢字の字音によって組み立てられる語をさす。従って中国伝来の語であるか，日本製の語であるかは問題にしない。

国立国語研究所書きことば研究室で総合雑誌の語彙調査を行なった際に調査単位とした，「β単位」と称するものを，その単位とする。β単位の詳細については，国研報告13『総合雑誌の用語　後編』（以下『報告13』と略称）に譲るが，その具体例としては，この稿の引例において，分ち書きで示した一つ一つの単位が，すなわちその一βに当るわけだ。

【結合ということ】 ここで結合というのは，相接する二つ以上の単位語が，文節の内部のものとして，何かひとまとまりの意味および機能を持つ場合をさす。ただし，助詞・助動詞などのいわゆる付属語は除外する。従って，自立語と付属語との結合や付属語どうしの結合は問題にしない。たとえば，

一家に一台普及セール（新聞広告）

御飯の水加減標示器（雑誌広告）

などは，いずれも一個の事実を表わす名称ではあるが，ここではひと続きの結合体とは考えず，考察の対象から除外しておく。また，自立語でも，用言の連体法・副詞法・中止法などや，副詞・連体詞・接続詞が，修飾・接続の関係で後に続き，一個の文節をなすことの明らかなものは，結合の中に含めない。

言語政策を話し合う会

という団体の名称なども，ここでは一個の結合体とは考えないでおくわけだ。

なお，いわゆる複合と派生とは，区別しないでひとしく結合として取り扱う。日本語の場合，両者は本来共通の性質を持つものであって，特に区別する理由が認められないからだ。

さて，以上のいくつかの規定をした上で，新聞・雑誌等に実際に用いられた長い結合例を拾い出してみよう。

積雪 寒冷 地帯 義務 設置 学校 屋内 運動 場 急速 整備 促進 期成 会（朝日新聞，昭30. 4. 4）

———14語による13回の結合。

東京 都 修学 旅行 誘致 接遇 協議 会 学生 観光 指定 旅館（週刊朝日，昭32. 6. 23）

———12語による11回の結合。

これらは，今までに採集し得た結合例の中では最も長いものだが，このよう

に結合回数が10回をこえる例は，実際にはきわめてまれにしか見られない。また，法令の名称にも長い語形のものが多い。いま試みに『現行日本法規』の索引について，昭和32年，33年（10月まで）に発令された各法令の名称を見るとさすがに十回をこえる結合回数をもつ例は見当らない。しかし，それに次ぐ長い語形のものは，かなり見受けられる。次に，二三の例を引用しておく。

〔10回の結合〕

国家 公務 員 等 退職 手当 暫定 措置 法 施行 令
家庭 裁判 所 調査 官 研修 所 事務 局 分課 規定
消防 団 員 等 公務 災害 補償 責任 共済 基金 法

〔9回の結合〕

非 現業 共済 組合 連合 会 補助 金 交付 規則
国土 開発 縦貫 自動 車 道 建設 法 施行 令

〔8回の結合〕

公立 養護 学校 整備 特別 措置 法 施行 令
地方 財政 再建 促進 特別 措置 法 施行 規則
国有 提供 施設 等 所在 市町村 助成 交付 金

さて，以上のような長い語形は，実際にはそのまま使われることは少なく，たいていの場合，語形の省略が行なわれる。最初にあげた「積雪寒冷地帯……」の例などもあまりに長すぎるところから，普通には略して「屋体期成会」（「屋体」は「屋内体操場」の略とか）と呼ばれるそうだ。また，わずか5回の結合になる「警察官職務執行法」でさえも，新聞等では「警職法」，放送でも「警官職務法」（NHK）と略称するのが普通だ。こうした省略がさかんに行われるのは，言語の使い手の意識の中に常に語形を安定的な長さにしようとする要求が自然にはたらくからだろう。こう見てくると，日本語における語形の長さにも，ある一定の限度のあることが考えられる。それでは，その限度とはどのくらいの長さだろうか。われわれは，一体，何回ぐらいまでの結合形を最も安定度の高いものとして受け取っているのだろうか。

これらの点を明らかにするには，実際に行なわれている言語について，ある程度数量的に調査をすることが必要だ。しかし，現在までのところ，そうした調査は見当らない。そこで，限られた資料についてではあるが，最近小さな調

査を試みたので，その結果をここに報告して，この問題を考える上の一つの基礎資料としたい。それは，さきに国立国語研究所で行なった総合雑誌の語彙調査における結果の一部に基いて，いわゆる二字の漢語の結合状況をあらたに調べなおしたものだ。注1) この調査の概要は次の通りだ。

【調査対象とした雑誌の種類】 総合雑誌およびそれと近い内容を持つ雑誌13種（改造，解放，世界，世潮，中央公論，文芸春秋，学園評論，国民，心，人生手帖，日本及日本人，ニューエイジ，平和）

【範囲】 昭和28年7月号から昭和29年6月号までの本誌および付録とその期間中に出た増刊号。（表紙，目次，広告などを除いて，本文と認められるページに使われているすべての語を対象とする。）

【標本】 推計学的に厳密な方法で，ページを単位として全体の約二十分の一（約二万三千ページから千百二十ページ）を無作為に抽出し，さらにそれぞれの二分の一ページを無作為に選んだ。（母集団の大きさ約九百万語に対し，標本の大きさは二十三万余語。）以上の調査のうちで，延べ二十三万余語の標本について，もう一度無作為に選んだ延べ十一万六千余語を，中間的に集計した。この延べ十一万六千語は，異なった一万五千余語の繰り返しによって成り立っている。（以下，標本全体とよぶのはこれをさす。）この中で，二字の漢語は，延べにして約三万二千五百語，異なりで約六千七百語を占めているが，これを対象としてその結合回数を調べてみた結果を，以下に報告する。

【二字の漢語の結合力】 調査対象を特に二字の漢語に限ったのは，主として調査対象をせばめるためだが，一方その選択にあたって次のような理由を考えたからだ。すなわち，現代日本語の中で二字の漢語は，延べ語数の点でも異なり語数の点でも，最も多く使われる種類であること，注2) また，二字の漢語は結合の要素としても最も多く用いられる種類であること注3) 等の理由による。

注1　すべての自立語における一次的結合の状況については，『報告 13』および『年報 9』(追報)に報告したが，そこでは二回以上の結合形については触れていない。

注2　総合雑誌の調査結果では，標本全体の延べ語数十一万六千語に対し，二字の漢語は約三万二千五百語(約28パーセント)，異なり語数では約一万五千余語に対する約六千七百語（約43パーセント）を占めている。

注3　結合の部分として用いられた延べ語数が標本全体で約四万三千語あるうち，二字の漢語のそれは約一万七千語（約40パーセント）を占めている。

二字の漢語のほかに結合の部分としてよく用いられる種類には，一字の漢語があるが注)，その大半は二字の漢語とたがいに結合しあって用いられるので，二字の漢語の結合状況を調べることによって，同時に一字の漢語の結合状況についても，ある程度の見通しが得られるものと思われる。

2　二字の漢語の結合回数

標本に現われた二字の漢語の延べ語数は，約三万二千語であるが，そのうちの約一万七千語（52.2パーセント）までは，結合の部分として用いられる。その一万七千語を結合の回数ごとに分けて表示したのが，次ページの第1表であり，またその結果を図示したのが第1図である。

ここで念のためにことわっておくが，第1表にあげた延べ語数は，結合の部分として用いられた二字の漢語の述べ語数であって，結合形全体の延べ語数ではない。たとえば，結合回数6回以上の延べ語数は85となっているが，それは次に掲げるような25の結合例の部分として，85の二字の漢語が含まれることを意味するものだ。（以下の各結合例の右側のカッコ内に記した数字は，その結合中に含まれる二字の漢語の延べ語数であって，これが第1表に記載されたものと一致するわけだ。）

〔12回の結合例〕

朝日 新聞 後援 第 一 回 全 関東 学生 討論 会 優勝 者（5）

〔10回の結合例〕

政治 運動 的 平和 運動 的 労働 運動 的 大衆 集会（8）

〔9回の結合例〕

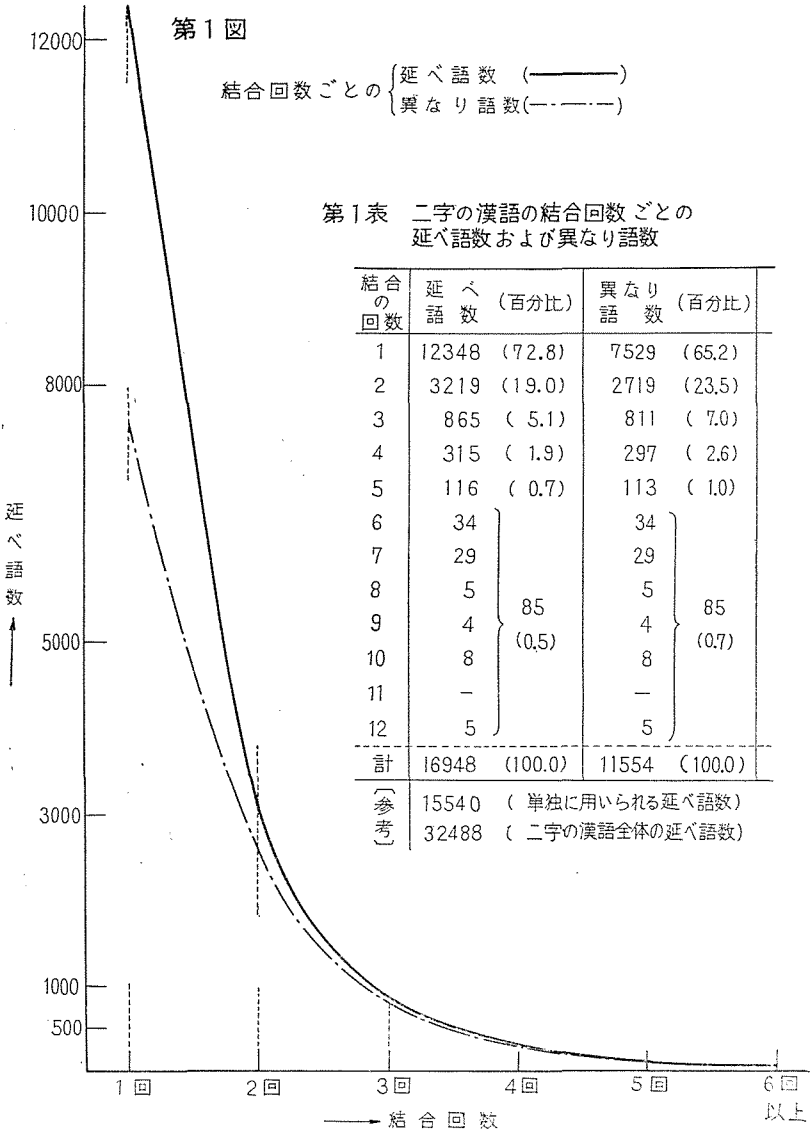
仙台 高等 裁判 所 第 一 刑事 部 裁判 長（4）

〔8回の結合例〕

社会 的 人事 的 経済 的 共同 決定 権（5）

〔7回の結合例〕

注　結合の部分として用いられる一字の漢語の延べ語数は約八千九百語（約21パーセント）であるが，そのうちの約四千八百語までは二字の漢語と結合しあって用いられる。



第1表　二字の漢語の結合回数ごとの延べ語数および異なり語数

結合の回数	延べ語数	(百分比)	異なり語数	(百分比)
1	12348	(72.8)	7529	(65.2)
2	3219	(19.0)	2719	(23.5)
3	865	(5.1)	811	(7.0)
4	315	(1.9)	297	(2.6)
5	116	(0.7)	113	(1.0)
6	34	85 (0.5)	34	85 (0.7)
7	29		29	
8	5		5	
9	4		4	
10	8		8	
11	—		—	
12	5		5	
計	16948	(100.0)	11554	(100.0)

〔参考〕
15540 (単独に用いられる延べ語数)
32488 (二字の漢語全体の延べ語数)

政治的経済的社会的実践活動（5）
産業労働者住宅資金融通法案（5）
対日理事会日本非軍事化問題（4）

米 占領 軍 権力 内 米国 的 秩序（3）
北 大西 洋 条約 機構 参加 諸国 用（4）
巨済 島 第 七十 六 捕虜 収容 所（2）
第 三 回 中国 五 大学 競技 大会（3）
外務 省 経済 局 第 三 課 長（2）
NHK 第 一 放送 六 時 五〇 分（1）

〔6回の結合例〕

勤労 者 住宅 建設 促進 法 案（4）
産業 労働 者 住宅 公社 法 案（4）
自治 庁 行政 管理 庁 長官 兼任（5）
反 吉田 反 再 軍備 統一 政府（3）
ピゼイ 海軍 ギブス 空軍 両 司令 長官（4）
菊池 寛 賞 受賞 祝賀 会 場（2）
週刊 読売 六 月 七日 号 参照（2）
毎日 新聞 七 月 八日 夕刊 紙上（2）
日教組 第 三 回 教育 研究 大会（3）
全 金属 練習 機 HT 2 型（2）
四千 万 ドル 合理 化 用 施設（2）
一 九 五 三 年 はじめ 以来（1）

さて，以上の結果から次のことがわかる。

二字の漢語の結合回数のうちでは，やはり一回のものが圧倒的に多く，二回，三回と結合回数を増すに従って，その使用度は激減する。

このことは，わざわざ調査をしなくても，当然予想されることだ。ただし，上の数字に見るように，各結合回数ごとの使用度の差の大きさには，十分に注意する必要がありそうだ。すなわち，結合の部分として用いられる二字の漢語の大半（72.8パーセント）は，二要素による一回の結合が占めており，三要素による二回の結合（18.9パーセント）との間には，非常に差がひらいている。結合回数が三回，四回と重なるに従って，その間の使用度の差は縮まるが，そのかわり使用度そのものがきわめて少なくなる。（結合回数三回以上のものを合計しても，8.2パーセント，四回以上のものでは，わずか3パーセントにしかならない。）従って，第1図に示したように，相当の急傾斜になるわけだ。

こうした実際の使用度から見ても，大体のところ結合回数一回あるいは二回

の結合形に語の長さとしての安定度を認めてよさそうだ。このことは，前述の略語形が「警職法」あるいは「警官職務法」のように，多く一回ないし二回の結合形にとどまっている点と見合わせて考えられるだろう。

3　各結合回数ごとに見られる結合の型

次に，各結合回数ごとに，どのような結合の型が多く用いられているかを，調べてみよう。まず，二字の漢語が一次的に結合する場合，前部分の要素となるか，後部分の要素となるかによって，さらにはまたいかなる種類の語を相手として結合するかによって，分類した結果を，第2表および第3表に示す。

第2表　前部分（一次的結合）としての結合

1次的結合の相手 ＼ 結合回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
①漢語名詞を付ける　一字の漢語を	2486 (1439)	756 (631)	178 (168)	63 (62)	21 (21)	4 (4)	9 (9)	3 (3)	3 (3)	—	—	2 (2)	3525 (2342)
①漢語名詞を付ける　二字の漢語を	2291 (1676)	516 (449)	145 (136)	47 (44)	22 (22)	3 (3)	4 (4)	1 (1)	—	4 (4)	—	—	3033 (2339)
①漢語名詞を付ける　三字の漢語を	6 (6)	118 (98)	15 (15)	8 (8)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	—	1 (1)	—	—	1 (1)	155 (135)
①漢語名詞を付ける　四字以上の漢語を	—	56 (53)	34 (28)	8 (8)	5 (5)	1 (1)	—	—	—	—	—	—	104 (95)
②　和語名詞を	410 (302)	20 (20)	6 (6)	—	2 (2)	1 (1)	—	—	—	—	—	—	439 (331)
③　洋語名詞を	72 (56)	3 (3)	3 (3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	78 (62)
④　混種語名詞を	1 (1)	9 (9)	6 (6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16 (16)
⑤　固有名詞を	39 (35)	12 (11)	1 (1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	52 (47)
⑥　数詞を	10 (7)	122 (54)	37 (36)	12 (11)	3 (3)	—	—	—	—	—	—	—	184 (111)
⑦　①～⑥までの複合形を	—	4 (4)	9 (9)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	—	—	—	—	—	—	20 (20)
⑧　動詞を	2870 (1244)	69 (65)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2939 (1309)
⑨　形容詞を	47 (28)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	47 (28)
計	8232 (4794)	1685 (1397)	434 (408)	143 (138)	57 (57)	11 (11)	15 (15)	4 (4)	4 (4)	4 (4)	—	3 (3)	10592 (6835)

第3表　後部分（一次的結合）としての結合

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
①漢語名詞に付く	一字の漢語に	568 (352)	133 (111)	35 (33)	7 (7)	4 (4)	3 (3)	—	—	—	—	—	—	750 (510)
	二字の漢語に	2291 (1676)	516 (449)	145 (136)	47 (44)	22 (22)	3 (3)	4 (4)	1 (1)	—	4 (4)	—	—	3033 (2339)
	三字の漢語に	5 (5)	386 (329)	35 (35)	13 (13)	2 (2)	1 (1)	—	—	—	—	—	—	442 (385)
	四字以上の漢語に	—	164 (139)	97 (92)	37 (36)	12 (11)	7 (7)	1 (1)	—	—	—	—	—	318 (286)
②	和語名詞に	223 (158)	50 (47)	4 (4)	5 (5)	—	1 (1)	—	—	—	—	—	1 (1)	284 (216)
③	洋語名詞に	91 (67)	18 (18)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	—	—	—	—	—	—	—	116 (92)
④	混種語名詞に	20 (20)	15 (13)	8 (8)	2 (2)	—	—	—	—	—	—	—	—	45 (43)
⑤	固有名詞に	743 (394)	101 (88)	30 (29)	12 (10)	3 (3)	—	1 (1)	—	—	—	—	—	890 (525)
⑥	数詞に	175 (63)	99 (77)	34 (26)	17 (14)	7 (6)	—	2 (2)	—	—	—	—	—	334 (188)
⑦	①～⑥までの複合形に	—	52 (51)	39 (36)	30 (26)	8 (7)	8 (8)	6 (6)	—	—	—	—	1 (1)	144 (135)
計		4116 (2735)	1534 (1322)	431 (403)	172 (159)	59 (56)	23 (23)	14 (14)	1 (1)	—	4 (4)	—	2 (2)	6356 (4719)

この表では二回以上の結合回数をもつものも，結合すべき相手の語としては，便宜上，基準になる二字の漢語に対して第一次的に結びつくものに限った。たとえば，〈共産主義陣営〉という二回結合の例は，（○○＋○○）＋○○[注]という構成であるから，それぞれ基準になる語ごとに，

〈共産〉（◎◎＋○○）＋○○　　前部分として二字の漢語「主義」を後に従える。

〈主義〉（○○＋◎◎）＋○○　　後部分として二字の漢語「共産」に付く。

〈陣営〉（○○＋○○）＋◎◎　　後部分として，四字の漢語〈共産主義〉に付く。

と考えた上，それぞれの該当欄におさめて集計した。

注　以下，記述の便宜を考えて，二字の漢語を○○，一字の漢語を○で示すことにする。◎◎は，それが基準になる二字の漢語であることを示す。

この両表を見比べながら，使用度の高い結合の型を拾い出してみよう。

(1) 結合回数一回の場合

一回の結合において，非常に多く使われるものを，延べ語数の多い順に書き出すと，次のようになる。

㋑	◎◎＋動詞	2870	(1244)	主張する　解決できる　努力いたす
㋺	◎◎＋○	2486	(1439)	合理化　指導者　経済的
㋩	◎◎＋○○ (○○＋◎◎)	2291	(1676)	資本主義　世界平和　独占資本
㋥	固名＋◎◎	743	(394)	日本文学　フランス政府　中東諸国
㋭	○＋◎◎	568	(352)	再軍備　大会社　不合理
㋬	◎◎＋和名	410	(302)	共産側　労働組合　映画入り
㋣	和名＋◎◎	223	(158)	力関係　織物会社　組合運動
㋠	数詞＋◎◎	175	(63)	一部分　五時間　三十年度

延べ語数では㋑の型がいちばん多いが，このうちの大半は〈◎◎＋する〉である。また，この型は，ほとんど一回の結合だけで使われ，〈主張 し はじめる〉〈解決 でき かねる〉注1)のような二回結合のものも少しあるにはあるが，三回以上の結合例は全く見られない。これが，他の㋺㋩㋥㋭などの型とは性質を異にする点だが，これは，結合形全体が用言たる資格をもつ以上，当然のことだろう。

㋺と㋩，つまり（○○＋○）と（○○＋○○）という型は，一回結合の場合だけでなく，二回以上の結合の要素としても，最も多く使われるものだ。この両者を比較すると，結合の意味的関係注2)に少しく違いが見られる。つまり，（○○＋○○）の型においては，次のように様々な意味的関係が見られる。

(a) 並立関係（前部分と後部分とが対等の資格で並立する関係）

自由自在　新聞雑誌　政治経済　政府与党　直接間接

(b) 主述関係（前部分が後部分に対する主語になるような関係）

革命成功　対立激化　貿易不振　経済自立　技術向上　住宅不足　生産上昇

注1　この例における「はじめる」「かねる」のような，比較的自由に広い範囲の語につくと考えられる接尾的要素は，それぞれ1βとした。従ってこの結合例は二回の結合回数をもつものと考える。

注2　結合の意味的関係については，拙稿「語構成の特質」（筑摩書房版『講座 現代国語学Ⅱ』所収）において取った分類法に拠った。

(c) 補足関係（前部分が後部分の客語になる関係）

原爆 貯蔵　研究 発表　経済 援助　戦争 放棄　経営 参加　憲法 違反　原子 攻撃

(d) 修飾関係（前部分が後部分の意味を修飾する関係で，その修飾のしかたには様々な種類がある。）

国会 議員　新聞 記事　世界 平和　国際 会議　独占 資本　反対 運動　必要 条件
最大 目標　一般 大衆

(e) 補助関係（後部分が前部分を形式的に補助する関係）

戦争 直後　教授 一同　学生 諸君　生産 本位　議員 自身　憲法 以前

（実際の使用度としては，(d)が最も多く(c)がこれに次ぎ，(e)(b)(a)は少ない。）

これに対し，（○○＋○）の型では，次の二つの関係しか見られない。

(a) 修飾関係　政府 案　委員 会　社会 学　生産 額　外国 軍　映画 祭　解決 策

(b) 補助関係　合理 化　戦争 後　在学 中　事実 上　可能 性　経済 的　国際 式

しかし，後者における一字の漢語は，種類としてはさほど多くはないが，いずれも広範囲の語に自由につくので，その使用度は非常に高い。特に，〈的〉などはその代表的なものだ。

次に，㋩および㋥の，和語名詞を結合の部分に含む型では，二回以上の結合になると使用度が激減する。また，一回の結合の中でも，いわゆる接頭語，接尾語と結合しあうものが多くを占めている。従って，単独にも使われうる和語名詞の結合力は，漢語などに比していちじるしく弱いと言っていい。

(2) 結合回数二回の場合

二回の結合を遂げたもののうち，第一次的に漢語名詞と結合しあうものだけに限って，その結合の型ごとの使用度を，次ページの第4表に示す。

第4表から，比較的多く使われる結合の型を拾い出すと，次のようになる。

㋑	(○○＋○)＋○○	346 (298)	資本 家 階級　社会 党 左派　精神 病 患者 階級 的 自覚
㋺	(○○＋○○)＋○	188 (159)	軍事 基地 化　民主 主義 者　社会 保険 費会 談 終了 後
㋩	(○○＋○○)＋○○	164 (139)	共産 主義 陣営　安全 保障 条約 教育 研究 大会　平和 経済 建設
㋥	○○＋(○○＋○)	102 (84)	左派 社会 党　経済 民主 化　青年 指導 者 学生 選挙 権

㋑の型がいちばん多いが，中でもいちばん目立って使われるのは，

一般的傾向　科学的興味　技術的進歩　経済的援助　国家的権威　国際的緊張

のような，　(○○＋的)＋○○　の型であって，これが㋑の型のうちの実に七割前後を占めている実情だ。

第4表　結合回数二回の結合の型

A　一字の漢語・二字の漢語との結合関係（～は一次的結合型の代用）

二回目の結合の相手 ＼ 一次的結合の型	◎◎＋○		◎◎＋○○ (○○＋◎◎)		○＋◎◎	
～＋○	73	(57)	188	(159)	30	(26)
～＋○○	346	(298)	164	(139)	40	(31)
～＋○○○	1	(1)	1	(1)	1	(1)
～＋漢語以外	77	(66)	26	(25)	10	(8)
～＋用言	53	(43)	25	(23)	12	(11)
○＋～	22	(19)	10	(10)	7	(5)
○○＋～	102	(84)	56	(53)	16	(14)
○○○＋～	3	(3)	2	(2)	1	(1)
漢語以外＋～	79	(60)	44	(37)	16	(14)
	756	(631)	516	(449)	133	(111)

B　三字の漢語との結合関係

◎◎＋(○○＋○)	102	(84)	118 (98)
◎◎＋(○＋○○)	16	(14)	
(○○＋○)＋◎◎	346	(298)	386 (329)
(○＋○○)＋◎◎	40	(31)	

C　四字の漢語との結合関係

◎◎＋(○○＋○○)	56	(53)
(○○＋○○)＋◎◎	164	(139)

(3)　結合回数三回以上の場合

結合回数が三回以上にわたると，結合の種類も多くかつ複雑になる上に，それぞれの使用度もかなり少なくなるため，特に目立つような結合の型は見られない。参考までに，結合回数三回のものの中から，漢語どうしの結合例に限って，あげてみよう。ただし，その組合わせのすべてをあげるのはわずらわしい

ので，おもなものだけにとどめる。三回の結合例は，下のAとBに二大別される。Aは，すでに一回ずつの結合を遂げたものどうしが，結合しあうもの，Bは，一回の結合形の上に，さらに二回，三回と重なり合って結合しあうものだ。

A

㋑	(○○+○)+(○○+○)	組織的軍事力　平和祭展示会　共産党機関紙
㋺	(○○+○)+(○+○○)	文化的自意識　軍事的再編成　革命的急先鋒
㋩	(○○+○)+(○○+○○)	社会的実践活動　自由党少数内閣　国際的物価騰貴
㋥	(○○+○○)+(○○+○)	安全保障理事会　国際連合事務局
㋭	(○○+○○)+(○+○○)	憲法改正再軍備
㋬	(○○+○○)+(○○+○○)	貿易促進議員連盟　民族解放平和運動

B

㋑	[(○○+○)+○]+○	〔用例なし〕
㋺	～　+○○	世界観的対立　経済学部教官
㋩	[(○○+○)+○○]+○	政治的解決策　心理学研究生
㋥	～　+○○	選挙法改正運動　労働者住宅問題
㋭	[(○○+○○)+○]+○	社会心理学的
㋬	～　+○○	平和主義化政策　自然科学系学部
㋣	〔(○○+○○)+○○〕+○	自由世界諸国間　民族問題研究所
㋠	～　+○○	原子爆弾問題解決　原炭搬出拒否斗争

これらのほか，それぞれの例の前要素と後要素との位置がたがいに入れ替った結合形もあるため，全体としての結合の型はまだまだあるわけだ。これらの結合形を見渡してわかることは，やはり，一回結合としての（○○+○）と（○○+○○）という結合形が中心になって，さらにより大きい結合形を形成している点であって，この傾向は，二回結合の場合と全く同様であり，また，四回以上の結合形についても同じように見受けられる現象だ。

4　語の結合回数と理解度

以上，総合雑誌における二字の漢語が，各結合回数ごとにどのように使われているかを見てきた。ところで，この結果をもってただちに日本語の語形の安

定的な長さを求めることはもちろんできない。総合雑誌以外の他の種類の雑誌や新聞，あるいは教科書等，現代日本語の様々な資料について，この種の調査をすることも必要だろう。また，結合の回数だけでなく，結合の意味的関係についても精査しなければならない。しかし，たといそれらの結果がわかったとしても，まだ十分ではない。というのは，この種の調査だけでは，言語の使い手の側が，語の長さをどのようにとらえ，どのように運用しているかの実態は知りえても，言語の受け取り手が，これをどのようにとらえ，どのように理解するかの実情は知ることができないからだ。語の結合回数の違いにより，また結合の意味的関係のいかんによって，言語の受け取り手の理解度にいかなる差が生じるかという，理解調査をも，当然並行して進めなければ，片手落ちになる。

戦後，マス・コミュニケーションにおける言語の研究がさかんになって「文章の読み易さ」の研究が新聞・放送等の分野で試みられている。従来は，文の難易度を測る尺度として，文の長さとか漢字の含有度とかがあげられているが，日本語の場合には，語構成に関する事項，たとえば結合の回数や結合の意味的関係なども，重要な尺度の一つとして，ぜひ加えるようにすべきだろう。ただし，その場合は次の点に注意をはらう必要がある。ひとくちに語構成といっても，それにはいろいろの段階があることだ。単純に，単独と結合との用法に二分して，常に後者の方が前者より理解しにくいと決めてかかったのでは正確な結果は得られない。「警察の人」と言うよりも，「警察官」と言う方が，また「憲法を改正する問題」と書くよりも「憲法改正問題」と書いた方が，場合により相手によっては理解が能率的に行なわれることもあるからだ。そうかといって結合形の方が常に能率的だとも言えないことは，最初に掲げた長い語形を考え合わせれば明らかだろう。要は，その結合回数と結合の意味的関係がどうであるかによる。こうした配慮を十分に尽くした上での理解調査がなされ，他方，上に試みたような基礎調査が他の多くの資料についてもなされて，それらの結果が積み重なったときに，現代日本語における語形の安定的な長さというものも，はじめて明らかになってくるだろう。